

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	15-113	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcoholic hepatitis and HCV interactions in the modulation of liver disease. 肝疾患の調節におけるアルコール性肝炎と HCV の相互作用		
執筆者		
Punzalan CS, Bukong TN, Szabo G.		
掲載誌		
J Viral Hepat. 2015 Oct;22(10):769-76. doi: 10.1111/jvh.12399. Review.		
キーワード		PMID
慢性肝損傷の激化、線維化、炎症、miR-122		25754333
要 旨		
<p>目的： 過度の飲酒が引き起こすアルコール性肝炎（AH）と慢性 C 型肝炎(HCV)感染は世界的に頻度の高い疾患であり、合併も多い。肝臓においてアルコールと HCV の相乗的な影響は慢性的な肝臓へのダメージを激化させるともいわれ、アルコール中毒でない HCV 感染患者と比べ線維化や肝細胞がん(HCC)、早死の確率が高く、入院すると 24%長期化し 2 倍入院中の死に至ると報告されている。HCV におけるアルコールの影響力を評価する研究は多くあるが、AH を合併して入院した患者において HCV の影響を研究したものはほとんどない。</p> <p>方法： 本論文はアルコール中毒と関連する HCV 感染の分子病態生理学的なメカニズム、臨床的患者背景、罹患率に焦点を当てる文献レビューである。</p> <p>結果： 近年の研究成果はアルコールと HCV の相乗的な影響に関するものが中心であり、HCV ウイルス複製、肝細胞アポトーシス(細胞死)、肝臓酸化性ストレス、アルコール誘発性『腸管壁浸漏』、脂質合成増加と脂肪酸酸化低下、miR-122 の増加、抗ウイルス性免疫機能の変調を含め、肝疾患の進行を悪化させることが報告されている。ここで提示した臨床および基礎研究の成果は、HCV 感染症でアルコール中毒者の新しい治療法のために潜在的な領域へ脚光を当て、現在の治療を最適化するための主要な科学的知見であった。</p> <p>結論： AH と慢性 HCV の罹患は重要だが、有病率や治療、予後に関するデータは限られている。AH 患者の 38%に至るまで慢性的に HCV に感染しており、AH 入院患者は HCV の抗体を測定すべきである。AH の診断でも HCV 抗体の存在を除外すべきではない。肝生検は病因が明確でない場合に有用で、肝臓のダメージと線維化の重症度を評価する手段となるであろう。いくつかの研究が AH のみと比べ AH と HCV 両方の患者死亡率が悪くなることを示している。その原因は多因子性であるが、合併症例における治療率の低さ、あるいは重度の飲酒を伴う HCV 患者において HCC や肝硬変が急速に進行するメカニズムと関係していた。AH 患者を診断するスコアリングシステムや治療を評価しているほとんどの研究が、一般化可能性の不明瞭な HCV 感染の付随に対する分析をしていない。HCV を伴う患者における AH を調査するさらなる研究が必要である。</p>		